

これら古墳は、古くから地域の人々の

古くから人々の関心を集める存在



上 金銅装頭椎大刀（蛇塚古墳から出土）
下 獅喙環頭大刀柄頭（釜石古墳から出土）

茅野市域は湖北地域（岡谷市・下諏訪町域）と並び、諏訪地域内でも多数の古墳群が形成された地域です。茅野市西南部の守屋山麓の峰上に築かれた狐塚古墳に始まり、群馬県域との交流を示唆する独特の石室を有する疱瘡神塚古墳、王権に仕えた「舎人」たちの地位を物語る華麗な武具を出土した蛇塚、釜石古墳、多数の馬具をはじめとした豪華な副葬品が出土した大塚古墳など、小規模ながら豊かな歴史を物語る古墳が、今も残されています。

茅野市域の古墳について

古墳とは、主に日本の古墳時代（3世紀末～7世紀）につくられた墳墓（お墓）を指します。
多くは当時の豪族ら有力者のために作られたお墓であり、その形状は、円墳・方墳・前方後円墳など様々な形状のものが日本各地で確認されています。

そもそも古墳とは？



—— 八ヶ岳総合博物館内の古墳時代の展示 ——
茅野で見つかった副葬品を多数展示中

古墳の破壊と新たな発見

数世紀にわたって地域内で存在感を発揮した古墳ですが、明治時代以降、これらの古墳は開発等に伴い、次々に壊されていきました。次ページに紹介している大塚古墳も、道路整備や石材の利用のために取り壊されました。
しかし、そのなかでも郷土史家や教員らによりこれら古墳やその出土遺物が記録され、それらの遺物の多くが地元団体等によって現在まで保存されました。
また、皮肉なことに、取り壊されたことで、古墳に眠っていた出土品が明らか

関心を集めていました。例えば、「火の雨が降った時に逃げ込んだ」という火雨伝説が残されている古墳、墳頂部に一族の氏神の祠がたてられるようになった古墳など、地域の人々によって特別視、神聖視されていきました。
近世に入ると、古墳は学問的な関心の対象となり、特に大塚、姥塚、王経塚の3古墳は優れた古墳として、その被葬者について様々な説が登場しました。

ユニークな出土品について

市内の古墳からは、様々な遺物が出土しています。右ページに掲載している1～8の写真は、今回貸与促進事業によって帰郷する遺物の写真であり、全て疱瘡神塚古墳から出土した品です。

また、同古墳からは、非常に珍しい「子持高坏（子持器台ともいう）」も出土し、大塚古墳からは、まが玉や馬具など、ユニークな出土品が多く確認されています。近年も永明寺山古墳の発掘により銀象嵌装飾大刀が出土するなど、新たな発見が相次いでいます。

このように、市内の古墳からは多彩で歴史的価値に富んだ品が数多く出土しています。次のページでは、そんなユニークな出土品に加え、歴史的背景を持つ古墳について一部ご紹介いたします。

貸与促進事業とは？

文化財活用センターと国立博物館および文化財研究所が、地方創生・観光振興に寄与することなどを目的として、国内各地のミュージアムに対して、各地域ゆかりの所蔵品を貸し出す事業です。今回は、東京国立博物館から、疱瘡神塚古墳で出土した9件が貸し出されました。



企画展の関連イベント・企画を行います

講演会の開催！

古墳について知る特別な講演会。古墳の魅力にふれてみませんか？

- 場所 八ヶ岳総合博物館
- 参加費 通常入館料（400円）
- 申込 申し込みが必要です。（詳細は八ヶ岳総合博物館までお問合せください）

諏訪の古墳

日時 10月5日（日）13時30分～15時
講師 児玉利一氏（諏訪市博物館学芸員）

古墳時代の祭祀と諏訪上社

日時 12月14日（日）13時30分～15時
講師 笹生衛氏（國學院大学教授）

※講演会のタイトルは変更する場合があります。

—— その他詳細は、下記までお問合せください ——

ウォークイベント『守屋山麓の古墳を巡る』

神長官裏古墳・疱瘡神塚古墳・塚屋古墳・蛇塚古墳などを歩きながらご案内！

- 日時 10月13日（月・祝）8時30分～正午
- 集合場所 八ヶ岳総合博物館
- 参加費 500円（資料代）
- 定員 20名
- 申込 9月20日（土）9時から受付開始。八ヶ岳総合博物館までお電話ください。
— 11月に、第2弾『上川河床周辺と永明寺山の古墳を巡る』を開催予定です！ —

ビーナネットChino 茅野レガシー ～未来に残したい茅野遺産～

先人が築き、現代まで守り受け継がれてきた「茅野市の素晴らしいもの」を紹介する『茅野レガシー』。
今回の動画では、「大塚古墳のまが玉」と「疱瘡神塚古墳の子持高坏」をご紹介します。QRコードから動画をご覧ください。



特集 Special Feature

114年振りの帰郷を記念 茅野の古墳を再発見！

今年度、国立文化財機構所蔵品貸与促進事業に採択され、明治時代に発掘された宮川高部区の疱瘡神塚古墳の出土品9点が114年ぶりに茅野市に帰郷し、八ヶ岳総合博物館にて企画展が開催されます。広報ちのでも、「茅野は縄文だけでなく、古墳も面白い！」ということを特集を通してお届けします。

1_鉄矛 2_皿 3_碗 4_轡 5_杏葉 6_碗 7_長頸壺 8_坏
出典：ColBase(<https://colbase.nich.go.jp/>)

疱瘡神塚古墳



出典：ColBase(<https://colbase.nich.go.jp/>) 1

1 疱瘡神塚古墳より出土した『子持高坏』（器台の上に蓋付きの坏が5つのっている。出土当時は坏が1個、蓋が2個のみ残っていたが、器台に跡が5個あったことで、現在の形に復元。） 2 古墳の上部にある疱瘡神を祀った祠 3 調査時に作成された古墳の平面図 4 現在の古墳の様子（大きな岩は天井岩の一部で、特徴的なT字形の石室も確認できる。）

疱瘡神塚古墳の概要

宮川高部にある古墳で、熊野堂墓地の南側に位置しています。現在は、草木や堆積土に覆われて、全容を確認することはできませんが、墳丘が残りつつも古墳上部は失われ、横穴式石室が露出しています。石室は全長5・5mのT字形で、羨道と呼ばれる石室の入口の先に、垂直に玄室（遺体が安置される部屋）が設けられています。また、古墳上部には、古墳の名前の由来でもある疱瘡神を祀った祠があります。

出土品について

出土品には、碗や坏、鉄製の轡などがあり、重要美術品として認定され、現在、東京国立博物館に収蔵されています。中でも代表的な子持高坏という須恵器は、形が非常に特徴的で、古墳で執り行われたまつりの際に、食べ物を入れるための器として使われていたと考えられています。

東京国立博物館に所蔵された経緯

明治43年、杖突街道の修繕工事が行われた際に、架け橋の平石が必要になり、近隣にあつて既に石室が露出していたこの古墳を発掘することになりました。その発掘の際に、子持高坏などの資料が発見されました。

明治43年6月に、長野県知事から宮内省に報告をすると、発掘品を差し出すよう指示があり、明治44年に東京帝室博物館（現在の東京国立博物館）に寄贈されました。

担当者の推しポイント！

諏訪に限らず、日本の歴史を読み取れるような古墳です。疱瘡神塚古墳は、石室の平面形が珍しいT字形を示す6世紀前半頃の古墳で、群馬の一部の古墳と共通性が指摘されており、群馬との繋がりを連想させます。当時、諏訪地域は稲作に不利な土地でしたが、古墳時代に馬の飼育が広がり、多くの牧（牧場）が設けられました。馬は軍事力として重視され、同古墳からも多数の馬具が出土しており、ヤマト政権と結びつき、騎兵などの軍事的役割を担う豪族が登場したことがうかがえます。ヤマト政権にとっては、周辺の豪族に対抗しつつ、東国とのバランスを図るために諏訪の中小豪族を直属の兵として重要視したのではないかと考えられます。



文化財課 文化財係 堀川 洸太郎さん

大塚古墳（跡）

大塚古墳の歴史

大塚古墳は、JR茅野駅の周辺にある上川河床古墳群の一つで、茅野駅西口から南へ約300m進んだ踏切際にありました。

しかし、明治24年に道路の石材を得るために、古墳の発掘が行われ、発掘が終わると、大塚古墳の跡地は大塚神社となり、社殿と石碑が建てられました。

その後、駅前の開発に伴い、社殿は仲町区民会館のそばへ移転し、かつての社殿跡地には、石碑のみが残されました。現在も踏切前の跡地では、その石碑を確認することが出来ます。

左2枚の写真は、かつて大塚古墳跡地に建てられた社殿と現在の仲町の交差点の写真になります。



大塚古墳跡に建てられた過去の社殿



現在の社殿跡地（仲町の交差点）

出土品について

大塚古墳からは、直刀・刀装具・馬具・銅鏡などの副葬品や、まが玉等が出土しました。特に銅鏡は、全国的にみても出土例の少ない貴重なものです。

まが玉は21点出土し、材質もメノウ・水晶・滑石と複数の石材がありました。また、大塚古墳からは、管玉2点、切子玉28点、濃い青色をしたガラス製の丸玉51点と大小さまざまな玉類も出土しています。

これらのまが玉や玉類は、首飾りとして、現在、ハケ岳総合博物館の常設展示室に展示されています。バラバラの状態で出土したため、副葬された当時から首飾りの形状をしていたかは定かではありませんが、長さ約90cmと大振りのものになります。



1 大塚古墳出土のまが玉などの玉類を組み合わせた首飾り 2 大塚神社跡に残る石碑 3 仲町区民館内の大塚神社の社殿 4 大塚古墳より出土した馬具の一部

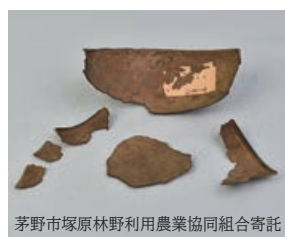


茅野市塚原林野利用農業協同組合寄託



茅野市塚原林野利用農業協同組合寄託

担当者の推しポイント！



茅野市塚原林野利用農業協同組合寄託

——大塚古墳出土の銅鏡——
企画展では、レプリカの写真も展示します。ぜひ、当時の人々の驚きを想像してみてください。

今回の企画展では、大塚古墳に限らず、普段収蔵庫などに保存しているお宝などを数多く展示しますので、多くの方に見に来てもらえたら嬉しいですね。



文化財課 博物館係 南澤 佑李さん

普段表に出ていない市内のお宝を見てほしい

お宝を見てほしい

企画展では、大塚古墳から出土した刀、馬具、銅鏡、鉄鍔（鉄の矢じり）、鉄製の耳環などが並びます。特に銅鏡は仏教儀式に用いられる大陸由来の金属器のため、古墳からの出土は珍しく、7世紀（古墳時代の終わり頃）に作られた大塚古墳だからこそ出土したものだと言えます。

恐らく信仰のためでなく、物珍しさから納めた可能性が考えられますが、当時は、金属光沢も新鮮で、見た人々が驚いた様子が想像できますね。

今回の企画展では、大塚古墳に限らず、普段収蔵庫などに保存しているお宝などを数多く展示しますので、多くの方に見に来てもらえたら嬉しいですね。

企画展について

企画展では、茅野市域に築造された古墳の地域的特徴という観点から、その被葬者や社会的背景に迫っていきます！
また、従来あまり知られていなかった茅野市域の古墳時代の造形美術の品々を多数展示いたします。

茅野は、縄文時代にとどまらず、古墳時代の重要な発見も相次ぐ、歴史の魅力が凝縮されたエリアです。そんな茅野の発見を企画展で覗いてみませんか。

企画展 古墳の茅野－地域のなかの古墳－

10月4日（土）～12月14日（日）

- 場所 茅野市ハケ岳総合博物館
- 特別協力 国立文化財機構文化財活用センター、東京国立博物館
- 料金 通常入館料（400円）

【ギャラリートーク（申込不要）】 場所：ハケ岳総合博物館

- ・10月10日（金）①10時30分～11時30分 ②13時30分～14時30分
- ・11月22日（土）、30日（日） 両日とも11時30分～

茅野の古墳はとてもユニーク！

市内に点在している古墳は非常にユニークな歴史を持つものばかりです。しかし、地域の中にある古墳には人々から忘れられてしまったものもあります。ここでは、企画展と合わせて、地域の新たな魅力を創出する機会となるよう、企画展とも関連が深い古墳についてご紹介します。